

幼稚園の実情を踏まえて、主体的に体を動かして遊ぶことが好きな子供を育てるための実践例

学校名 大阪市立鯉江幼稚園（大阪府）
全校幼児数 187名（男児86名 女児101名）
（本事例に係る問合せ先）
電話番号 06（6931）2970
メールアドレス k178211a@ocec.ne.jp

- 1 研究のねらい 主体的に体を動かして遊ぶことが好きな子どもに育てる。
- 2 研究の概要 人数が多いわりに、園庭が狭い。また、交通量が多い都会のため、降園後も戸外で体を動かす機会が少ない。そこで、幼児期運動指針を参考にしながら、どのようにすれば子供たちが体を十分に動かす遊びを主体的に楽しめるか探ることにした。

○実践プログラムの紹介

□ 発達の特性に合った遊びの例

- ①ボール遊び（4歳児）幼児にとって扱いやすい大きさのボールに季節に応じたイメージを加えて、年間を通して遊んだ。1学期は、天の川（スズランテープや星をつけたゴム）の上を越すことを目標に流れ星（スズランテープをつけた紙ボール）を斜め前に投げて遊んだ。星の尻尾をつけて投げた軌跡が見えるようにしたこと、天の川を子どもの実態に応じて高さを調節したこと、両方から投げ合って対戦したことで、より高く投げようとする意欲につながった。2学期は、お月見だんごなどに見立ててかごいっぱい入れることを楽しみ、目標物をねらって上に向かって投げる力につながった。3学期は、絵本『おおさむこさむ』のイメージで遊んだ。大きな雪坊主をねらって高く投げたり、保護者や友達と一緒に雪の玉（紙ボール）で雪合戦をしたりした。当たらないように逃げたり隠れたりしながら動く対象に向かって投げる敏捷性も育った。
- ②鬼ごっこ（5歳児）1学期から友達と一緒に鬼ごっこ（氷鬼、バナナ鬼、色鬼など）を楽しみ、逃げたり追いかけたり役割を分担しながら、走る姿が見られた。2学期には、室内でも十分に体を動かして遊べる鬼ごっこ（ところてん鬼ごっこやむかで鬼ごっこ、玉取り鬼ごっこ）で遊んだ。ところてん鬼ごっこでは、鬼の目印になる手作りバトンを用意したり、玉取り鬼ごっこでは玉の色やフープの色を揃えたりして、視覚的な環境を整えたことで、複雑なルールも理解し、繰り返し遊ぶことで持久力につながった。3学期はルールを更に難しくし、鬼を増やしたり、逃げる人数を増やしたりしたことで、運動量が増えた。年間を通して、様々な鬼ごっこに取り組んだことで、長い間走る持久力や、身をかかわしながら方向を変えて走る敏捷性、緩急をつけて走る瞬発力など、多様な力が育った。

○幼児の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 握りやすく安全な紙ボールや新聞バトンを使ったり、十分に動けるスペースを確保したりした。
- 2 遊戯室や保育室でも存分に活動できるように、室内でも遊べる内容やルールを工夫した。

○成果の意義と今後の課題

- 1 子供の興味や実態を踏まえ、季節感やお話などのイメージを取り入れて、楽しく遊べるように工夫したことで、子供たちは主体的に体を動かす遊びを楽しむようになった。
- 2 保育参加の日に保護者と一緒に鬼ごっこや雪合戦などをして遊んだことで、子供と一緒に体を十分に動かして遊ぶ楽しさや心地良さを啓発することができた。
- 3 今年度は、年間を通して多様な動きを意識して取り組んだことで、体力・運動能力測定でも顕著に「投げる」「走る」の項目に成果が見られた。今後の課題として、「跳ぶ」「支える」など他の多様な動きも意識しながら取り組んでいきたい。

○ 研究内容

【流れ星投げ】

天の川の上を越すことを目標にして流れ星を投げる



【むかで鬼ごっこ】

1列になり、鬼は一番後ろの人を捕まえる。



【雪合戦】

雪の玉を「雪坊主」をねらって投げる



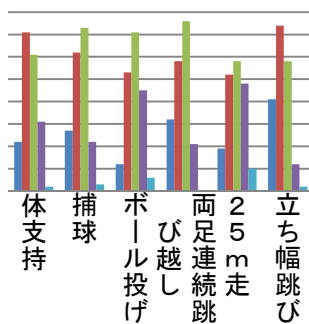
【ところてんおにごっこ】

二人組で座り、逃げる人がその隣に座ると反対の人が今度は逃げる。鬼は逃げていない人だけ捕まえる。



幼児の運動能力テスト、保護者アンケートの結果より

運動能力テストの結果を5段階評価で分類すると、幼児の傾向が見えてきた。



運動能力テストにおいて、3が平均値で、4と5は平均以上の値が出たものである。年間を通して「投げる」「走る」の活動に取り組んだことにより、ボール投げと25m走は他の種目に比べて平均以上の値が多くなった。しかし他の種目は平均以下の値が多く、全体的に平均値を下回る結果となった。

保護者アンケートでは、教師や友達と遊ぶ中で、健康な心と体が育っていると感じている保護者が全体的に増加した。全ての設問において、体を動かすことやそれに対する意欲が育っていると感じている保護者が95%以上であることがわかった。

【研究結果から】

今後取り組みたいこと

今後も毎日の生活や遊びの中に潜んでいる多様な動きを教師が意識して、継続して取り組んでいきたい。また、今回の体力・運動能力測定結果の分析を元に、保護者啓発や環境の工夫を更に図っていきたい。